

数年ぶりの妻と二人の外出と、
数十年ぶりの妻との映画鑑賞

——^{もりびと}杜人:環境再生医 矢野智徳の挑戦——

4日前、田舎に住む長男がやって来て、車を置いて一人で映画を観に行ったと妻が言っていました。

『杜人』のパンフレットを見ると、私も関心を寄せているネイチャー分野で体を張って生きている矢野智徳氏の記録映画であることが分かりました。私は京都西山のフジバカマ花壇で汗を掻いて帰って来て、シャワーを浴び終わったころ長男が帰って来ました。

『お父さんにも是非見せたい』という長男は、一緒に仕事やイベントをやったことが有るという矢野智徳さんを高く評価しており、招待券を一枚置いて帰りました。

夕食が済んだ頃、今度は長女が自分で作ったという菓子パンと北海道のアスパラガスを生産者に寄ってくれ、是非、夫婦での外出と、映画鑑賞を実現するようにと勧めて帰りました。

そうして迎えた5月24日の朝でしたが、私はマチガエテいつもより一時間も早い5時に起きてしまいました。



退職後なじみが薄くなった烏丸通りでバスを降りて、四条から北に歩いて”アップリンク京都”(新風館B-1)に向かいましたが、そこには懐かしい風景と、よみがえる思い出がありました。



まずは腹を膨らませてからと、新風館の中に沢山ある飲食店から天ぷら屋を選んで、一番高い定食(1,400円)を戴きました。揚げたての天ぷらは美味しいですね。カキが無かったのは残念ですが、満足しました。

映画は昼からの上映です。耳が聴こえにくくなった私にも、耳栓をしたい程の音量でしたが、そのうちに馴れるものですね。初めは違和感がありましたが、飾らず、とくとくと喋る彼の言葉に引き込まれ、私がこれまで気が付かなかった生態系の真の姿に引き込ま

② 次は履物です。メラノーマで左足の踵を失った上に、昨年 12 月ひと月の放射線治療を受けて火傷の症状が残って包帯を巻いている私は、町で履く靴が無いのです。山に通っている毎日は、改造した山靴で過していますが、通勤をしていた頃の短靴は 4 足共に小さくて、痛くて履けないことが分かりました。そこでサポーター代わりに履いている靴下を一足脱いで、靴べらで丁寧に履いたら何とか行けそうな靴が見つかったので、ほんとに久しぶりに短靴で街に出かけた訳です。(山歩きの時に、靴底が丸ごと落ちているのを何度も見っていますが、それも心配でした)帰宅後点検してみると、甲皮は無残に割れて今にも破れそうでした。ゴム底は割れてはいませんでした、足裏に小石の感覚が伝わるほどに弱っているようでした。



(ここまで 2022.5.24 著)

